

「Tutorial English」

楽しく生きた英語を身につける

少人数でディスカッションをし、英語のコミュニケーション能力を養成する「Tutorial English」が6月19日から生田キャンパスで始まった。週1回(60分)全5回コースで、中級(TOEFL400~450程度)と上級(同450~500程度)クラスがある。

参加者たちはインストラクターのローズ・キンバリーさん(米オレゴン大学アジア研究大学院生)の指導により、6人一組のグループ学習でゲームなどを交えながら日常会話を楽しく勉強している。



01年に本学に短期留学、現在はインターンシップ中のローズさんは ▲指導するローズ・キンバリーさん(右)
「生きた英語を身につけ、ぜひ留学に挑戦を」と話している。

なおローズさんは、8月に行われる「英語によるプレゼンテーションセミナー」も担当する。

交流ボウリング大会

64人が参加—BIGボウルで

第21回留学生と日本人学生の交流ボウリング大会が6月23日、向ヶ丘遊園駅前のBIGボウルで、学生ら64人が参加して開かれた＝写真。

同大会は、会場の中和ビルの山田長満社長のご厚意により毎年開催されているイベント。当日はボウリング初心者留学生が、日本人学生に教えられながら投球するなど和気あいの雰囲気。優勝は2ゲームで293点を獲得した芳泉俊矢さん(経済2)。大林守国際交流センター長から優勝トロフィーが贈られた。



夏期日本語・日本事情プログラム開講中 7週間コース

ウーロンゴン大生に3週間コースも実施

国際交流協定校など海外からの短期留学生が本学で日本語や日本の文化を学ぶ2006年夏期日本語・日本事情プログラムが始まり、6月26日、生田キャンパスで歓迎会が開かれた。

今回は7週間コースで檀国大学(韓国)など13大学34人が参加。8月4日(金)に成果を披露するプレゼンテーションが行われる。

このほか、豪ウーロンゴン大学からの留学生8人を対象にした3週間コースも開講、7月8日に終了した。同大生たちは川崎市の特養老人ホームを訪問するなど、広く市民とも交流を果たした。



▲歓迎会で自己紹介する短期留学生のみなさん



▲川崎市国際フェスティバルでオーストラリアについて発表するウーロンゴン大生(7月2日、川崎市国際交流センターで)

【留学生インタビュー】

ルトフィ・バクティヤルさん(インドネシア)
 —大学院経済学研究科修士課程2年

地域通貨の可能性をさぐる ゼミでどろんこ「コメ作り」も

JICAの奨学生として3年前に来日しました。

専門は政治経済学。中でも日本の地域通貨について研究しており、その現状や可能性を論文にまとめているところです。最近、地域通貨「ピーナッツ」を導入している西千葉の「ゆりの木商店街」の取り組みについて、商店街の人たちや住民にアンケート調査を行いました。



回答を見ると、ピーナッツによる「商品割引」「独自のサービス」などを経済的メリットとしてあげ、社会的メリットとしては「交流の機会が増えた」「地域活動に参加できる」と答えた人が多く、「農業指導や商品作りの講習を受けられる」「音楽など文化にふれる機会が増えた」といったものもありました。地域コミュニティーを広げる可能性もある地域通貨。今後も踏み込んだ調査を行っていきます。

故郷は、インドネシアのジャワ島中部のテガル。1万3000の島々に2億4000万人が暮らすインドネシアは、火山活動が活発で地震も多く、ここ数年災害が多発しています。

また、98年のスハルト体制崩壊後、大統領が4人も代わり、未曾有の経済危機もありました。一応の回復は遂げたもののいまだ経済的戦略が立てられない状況です。そんな中で民主化を求める「スチューデント・パワー」が起きています。日本に来た時、社会を揺るがす事件が起きて、学生が立ち上がらないのにはびっくりしました。政治や経済を身近なものとして考えないと、将来への夢が描けないと思うのですが……。

指導の泉留維経済学部助教授は、日本を代表する地域通貨の研究者の一人。泉先生の指導を受け、さまざまな勉強をしています。

泉ゼミでは毎年、農家の方の指導でコメ作りに取り組んでいます。しかも農薬や肥料、機械に頼らない昔ながらの自然・手作り農法。場所は横浜市の寺家ふるさと村。5月末に今年の田植えを終えました。日本独特の自然に接し、ゼミ生たちとどろんこになって交流し、環境や食について故郷と比較しながら考えています。

帰国留学生が体験談

海外留学フェアを5日間

海外留学フェアが7月3日から5日間、生田キャンパスで催され、本学の各留学プログラム(長期交換、中期、春期)参加の帰国留学生によるプレゼンテーションが日替わりで行われた。最終日に行われた個別相談では、協定校の交換留学生も参加し相談に応じた。訪れた216人は、留学に関する知識と理解を深めた。



▲パワーポイントを使って、留学経験者が留学先での生活を紹介

06年度夏期留学プログラム参加者

3大学へ57人

ブリストル大学(英国) 8/1~8/27	檀国大学(韓国) 8/1~8/26	マルティン・ルター大学 ハレ・ヴィッテンベルク(ドイツ) 8/1~8/20
小野 麻代(経済2)	東田 沙希(経済2)	新島 拓(経済2)
岩井可奈子(〃)	波田野真衣(〃)	長谷川恵介(〃)
道下 徹(法2)	高橋 香織(〃)	浅野 香(経済1)
尾崎慧里子(〃)	角内 貴美(〃)	山中 優香(経営4)
片貝 隼巳(〃)	小室 崇(法4)	星野 沙織(文2)
久保 絢佳(〃)	三橋 彩季(〃)	島津つかさ(ネット情報4)
荻島 敦史(法1)	内橋 裕一(法1)	稲垣 美香(〃)
黒澤 直子(〃)	金 成植(経営2)	大城 尊(院文修1)
柳澤 睦実(経営3)	斉藤 友李(〃)	<敬称略>
遠藤 美咲(経営2)	坂間 友紀(商3)	
大喜多宏紀(〃)	鈴木麻佑子(文4)	
森川 徹也(〃)	佐藤なつき(文3)	
及川 香澄(経営1)	京 亮子(文3)	
江森 潤(〃)	須田 紘彬(〃)	
平野 進(〃)	中島久美子(〃)	
馬上 崇(商2)	鈴木 詩野(〃)	
李 瑛株(商1)	森下友加里(文2)	
高松 亜衣(文3)	夏山 千佳(〃)	
小野曾 裕(〃)	大門 彩乃(〃)	
菊川 正也(〃)	李 理沙(ネット情報2)	
滝川 敏生(〃)		
鈴木あさ美(文3)		
高見 愛子(〃)		
津田 葵子(〃)		
今井佳奈子(文2)		
谷山 摩衣(〃)		
宮内 美穂(〃)		
島村 佳子(文1)		
西村 隆宏(二部 商3)		

狛江高3年生が本学訪問

模擬授業聴講や施設見学

高大連携協定校の都立狛江高校3年生全員(318人)が4週に分かれて本学を訪問し、幅広い分野の模擬授業聴講や施設見学を行った。

同校では、大学選びや学部選びなどの進路選択のきっかけとする「上級学校訪問」を実施しており、本学が協定校として協力することになったもの。

5月31日には、教職課程担当の小峰直史商学部助教授の「Try Communication! — I and Me I and You —」が行われ、生徒たちは積極的に授業に参加していた＝写真。



～楽しく学ぼう～ 高校生のための英語学習法

英語英米文学科の4教員による「高校生のための英語学習法」が7月8日、15日に生田キャンパスで行われた。

田邊祐司教授の「英語コミュニケーションの基本のキ」はゼミ生5人もアシスタントとして参加し、「ただ訳すのではなく、身振り、アイコンタクト、表情、声の強さ、距離感などさまざまな要素がコミュニケーションを作り出す」ことを伝えた。



▲「口で覚えるリスニング—発音でアップするリスニングの力」をテーマに平田一郎教授



▲ゼミ生と一緒に語りかける田邊教授